

全国ネット通信

Vol.13
2014
冬号

平成26年1月1日発行

2014年を迎えて

一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット 理事長 長谷川 公一



新年おめでとうございます。2014年、平成26年の幕開けです。11月8日にフィリピン中部を襲った超台風をはじめ、温暖化とともに巨大自然災害が世界各地で顕在化しつつあります。直後にポーランドのワルシャワで開かれた国連温暖化防止国際会議(COP19)では、フィリピンの代表による、各国3分間の割当時間を大幅に超過する17分間の涙ながらのスピーチが感動を呼び起きました。ちなみに2012年6月のリオ+20で、当時の玄葉光一郎外務大臣(民主党)が、2分間のスピーチで、福島原発事故には一言も触れずにひんしゅくを買ったのとは大きな相違です。玄葉氏の選挙区は、大熊町や浪江町などと隣接する田村市などの福島3区であるにもかかわらずです。

地球温暖化対策税が2012年度から導入されたことと、福島第一原発事故を契機に、再生可能エネルギーによる電力の固定価格買取制度がスタートしたこと以外に、この4年間、温暖化対策については、日本ではめぼしい進展はありませんでした。

COP19の会期中、11月19日付けで、環境省は、2008年度から12年度までの平均で90年比8.2%の削減となり(速報値)、京都議定書で約束した90年比6%削減という温室効果ガスの排出削減目標は達成する見込みとなったと発表しました(http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=23357&hou_id=17394)。

しかし実際の排出量は、5年間の平均12億7900万トンで、90年の12億6100万トンよりも1.4%増えています。森林吸収分で年平均3.8%(年間4767万トン)、「京都メカニズム」と呼ばれる海外からのクレジットの購入分で年平均5.9%削減を加えることができたための8.2%削減です(+1.4%-3.8%-5.9%=-8.3%)。実際の排出量が基準年を下回ったのは、リーマンショック直後の2009年(基準年比-4.3%)と2010年(同-0.3%)だけでした。景気低迷こそが最大の温暖化対策という皮肉な結果になっています。

COP19の期間中に日本政府が発表した2005年を基準とした2020年の削減目標値3.8%(90年比約3%増)は、90年比25%の削減目標に代わるものだっただけに、あまりにも消極的過ぎるとして世界から批判を浴び、イギリスの気候変動大臣からは「実に残念」という声明が出たほどです。11月15日付けの環境省の発表文書にはこの目標値について「原子力発電による温室効果ガスの削減効果を含めずして設定した現時点での目標」

という条件がついており、原子力発電所の再稼働が、削減目標をさらに高めるための、あたかも人質になっているような印象を与えます。

民主党の菅・野田政権、現在の安倍政権の温暖化問題に関する消極姿勢は、温暖化問題への社会的な関心の低下をもたらしています。市レベルでの地球温暖化防止活動推進センターの新設が停滞していることは、その何よりの証左です。

しかし国際的には、2020年以降の新しい枠組みづくりをめざす動きが活発化しており、2014年がきわめて重要な年になると目されています。

2014年3月25~29日にはIPCCの総会が横浜市で開催され、世界への影響や脆弱性に関する第2作業部会の報告書が公表される予定です。

全国センターのウェブサイト(<http://www.jccca.org/>)では、IPCC第5次報告書に関する特設ページを開設しています。国立環境研究所の久保田泉先生によるCOP19の現地リポートも充実しています。このサイトでは、温暖化問題に関する重要な動きを即时にフォローしています。是非、ご活用ください。

ワルシャワで石原環境大臣は、横浜でのIPCC総会を機に、政府は「新たな国民運動を立ち上げ、さらなる低炭素なライフスタイルを奨励します」。2020年の東京オリンピックを通じて、「低炭素社会、自然共生社会及び循環型社会を世界に示します」と世界に約束しました(このスピーチも全国センターのCOP19のサイトからアクセスできます http://www.jccca.org/trend_world/conference_report/cop19/index.html)。

手前味噌ですが、全都道府県を網羅し、全国各地で地道に温暖化対策に取り組む私達の活動は、温暖化対策に関する数少ない国内の〈希望の星〉と言えるかもしれません。これから本格化するという安倍政権のActions for a Cool Earthの地域レベルでの主要なパートナーは、地方自治体と私達です。

2月14・15日に開催される「低炭素杯2014」を皮切りに、2014年が、積極的温暖化対策への転換点となることを願ってやみません。

末筆ながら、本年のみなさまのご多幸をお祈りいたします。

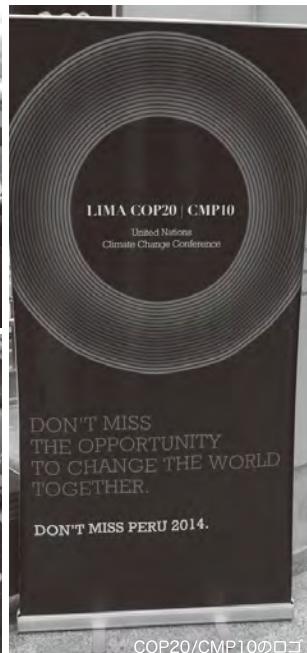
第19回締約国会議(COP19) その成果と日本の宿題



COP19会場とトラム



フィリピン代表サニヨ氏の発言後の会場の様子



COP20/CMP10のロゴ

2013年11月11日(月)から22日(金)まで、ポーランドのワルシャワにおいて、気候変動枠組条約第19回締約国会議(COP19)が開催されました。

COP19の主な成果は、以下の4つです。

1 2020年以降の各国の排出削減目標の提出時期

すべての国は、2020年以降の各國の削減目標について、国内での準備を開始・強化して、COP21(2015年、パリにおいて開催予定)に十分先立って(可能ならば、2015年第1四半期までに)示すことになりました。

2 「気候変動の悪影響に伴う損失・被害に関するワルシャワ国際メカニズム」の設置

「気候変動の悪影響に伴う損失・被害」とは、適応できる範囲を超えて発生する気候変動影響にどのように対処するかという問題です。今回、「気候変動の悪影響に伴う損失・被害に関するワルシャワ国際メカニズム」が設置されました。

3 カンクン合意における資金動員目標達成のためのプロセスに関する合意

先進国が、2014年から2020年までの間に資金支援拡大のための戦略及びアプローチについて、隔年で情報提供を行うこと等が合意されました。

4 「途上国における森林減少・森林劣化からの排出削減、森林の炭素蓄積の保全、森林の持続可能な管理、森林の炭素蓄積の強化活動(REDD+)に関するワルシャワ枠組み」への合意

世界全体の人為的二酸化炭素排出量の約2割は、森林減少・劣化によるものとされています。REDD+は、途上国が、“森林を伐採するよりも保全する方が得だ”と感じるような仕組みを作ることで、森林破壊と気候変動の両方を食い止めようとしています。

今回設置された、「REDD+に関するワルシャワ枠組み」によって、環境保全に配慮したREDD+の活動を実施する道が拓かれました。

COP19では、日本に大きな宿題が課されました。日本は、2005年比-3.8%という新しい2020年の削減目標を発表したばかりですが(併せて、この目標は、エネルギー政策が定まらない中、稼働原発をゼロと仮定した「暫定的」なものであるとの説明がなされています)、今後は、2020年以降の日本の排出削減目標の検討に移ることになります。2020年以降の国際枠組みの構築に戦略的に貢献していくためにも、国内における迅速な検討が必要です。その際には、科学・技術的な根拠の積み上げのほか、プロセスの透明性を確保する必要があります。

文・写真 国立環境研究所社会環境システム研究センター 主任研究員 久保田 泉

JCCAウェブサイトでも本頁に寄稿していただいた久保田 泉 氏による、第19回締約国会議(COP19)の現地レポート(全11回)を掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

http://www.jcca.org/trend_world/conference_report/cop19/index.html

低炭素杯2014 一般来場者募集中

次世代に向けた低炭素社会の構築を目指して、全国で様々な草の根活動が展開されています。各地で活動する学校・有志・NPO・企業などの方々が、その優れた活動のプレゼンテーションを通じて発信し、様々な方々との交流を深め、学び合い、連携の輪を広げていくのが低炭素杯です。

全国津々浦々、北は北海道から南は沖縄まで各地域からエントリーされた1,620団体のうち、厳しい審査を経て選ばれた41団体(ファイナリスト)が決定いたしました。

きたる、2月14日(金)、15日(土)、東京ビッグサイト(国際会議場)で開催する「低炭素杯2014」で日本一が決定されます。

また、今回併催される特別シンポジウムでは、今話題の本「里山資本主義」の著者による基調講演が予定されています。

現在、一般来場者募集中です。皆様のご来場をお待ちしております!

一般審査員も募集中

低炭素杯 2014

総合司会: 櫻田 彩子

2月14日(金) 13:00 ~ 17:30(受付開始 12:00)

開会式

出場団体によるプレゼンテーション

2月15日(土) 15:30 ~ 17:00(受付開始 12:00)

審査結果発表・表彰式



インターネットもしくは、FAXにて応募を受付けています。
募集の詳細及び応募用紙のダウンロードは低炭素杯2014
ウェブサイトをご確認ください。

<http://www.zenkoku-net.org/taitansohai2014/>

低炭素杯2014 検索

特別シンポジウム

総合司会: 櫻田 彩子

2月15日(土) 13:00 ~ 15:00(受付開始 12:00)

基調講演

『里山資本主義』を語る

NHK 広島取材班(日本放送協会広島放送局)報道番組チーフ・プロデューサー 井上 恒介

パネルディスカッション

「低炭素最前線から学ぼう! CO₂削減『日本一』大集合!」

【コーディネーター】

川北 秀人 IIHOE (人と組織と地球のための国際研究所)

【パネリスト】(発表予定順)

花本 靖 徳島県上勝町町長

石川 勝一 東京都東久留米市市民環境会議 座長

小森 芳次 栃木農業高校 教諭

竹元 榮香 芝浦工業大学システム理工学部生命科学科1年

「石垣島を元気にするプロジェクト」メンバー

斎藤 直 三菱電機株式会社 静岡製作所 ルームエアコン製造部 技術第一課 課長

入場
無料

会場&アクセス



会場
東京ビッグサイト
(国際会議場)

ゆりかもめ
(東京臨海新交通臨海線)

22分 新橋駅 → 国際展示場正門駅
8分 豊洲駅 → 国際展示場正門駅

りんかい線
(東京臨海高速鉄道)

13分 大崎駅 → 国際展示場駅
5分 新木場駅 → 国際展示場駅



麻紙すきの様子

「麻とは…」

麻は、希少価値の高い地域資源であり、夏の日よけに活躍する「よしず」などに使われています。成長が早く、CO₂を多く吸収することから、栃木農業高校の取組でも用いられています。

毎回話題のトロフィー、今回は麻がモチーフ!

低炭素杯2012、2013のグランプリ受賞を連覇した栃木県立栃木農業高校の生徒が、栃木県鹿沼市立永野小学校3-4年生(14名)と、栃木県の地域資源「麻」を活かした麻紙すきと芯縄作り体験を通じて地域協同のワークショップを開催しました。

このワークショップを指導していただいた造形作家の齊藤公太郎氏に、これまでの低炭素杯で話題となった、環境大臣賞受賞団体に授与されるトロフィーを、今回も制作していただきます。今回のトロフィーは「麻」がモチーフです。

さて、低炭素杯2014の「麻」を使ったトロフィーはどのような仕上がりになるのでしょうか、ご期待ください!

*ワークショップの様子は、低炭素杯当日ロビーにて写真展を開催いたします。

平成26年『家庭エコ診断制度』創設

環境省では、今年度まで3か年にわたって進めてきた「家庭エコ診断推進基盤整備事業」の成果を基に、平成26年度からは「家庭エコ診断制度」の創設を予定しています。

環境省では、この家庭エコ診断制度への参加のポイントをとりまとめた「制度説明パンフレット」を作成しています。制度参加へ興味をお持ちの方ならびにパンフレット希望の方は、当法人内うちエコ診断事務局へお問い合わせください。

なお、この制度を詳しく紹介する制度説明会は、環境省が主催し全国5か所(仙台、東京、大阪、岡山、福岡)で開催されます(参加申込み受付は終了)。



制度説明パンフレット

エコプロダクツ2013 ブース出展

12月12日(木)～14日(土)の3日間、東京ビッグサイトで行われた「エコプロダクツ2013」に出展しました。

今回は、IPCC第5次評価報告書を中心に「地球のいま、そしてこれから」を考える企画展示、省エネ製品買換ナビゲーション「しんきゅうさん」体験コーナー、うちエコ診断、平成25年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞された個人、団体の取り組みをまとめたパネル展示とバリエーションに富んだブースとなり、多くの方にメッセージを書いていただきました。



編集後記

第2子の育児休業を経て昨春より復職しました。本ページ右上の「しんきゅうさんキャンペーン」に来場した娘はすっかり「しんきゅうさん」のファン。5歳ながらも「もったいない精神」を習得しているようで、率先して照明をこまめに消したり、シャワーを止めたり、父母顔負けの行動力を発揮しています。通勤・仕事、保育園への送迎、食事の支度に洗濯、翌日の準備…と目まぐるしく過ぎて行く毎日ですが、休日、自然の中でもわむれて遊ぶ娘と息子を見ていると、日本の素晴らしい四季や自然を未来に残していくたいと強く感じています。新年を迎えて、できることから楽しくちょっとずつ。コツコツと積み上げていく一年にしたいですね。

企画調査グループ 井原 妙(うま年・年女)

省エネ製品買換ナビゲーション

しんきゅうさん キャンペーンを実施

スマートフォンに対応し、より使いやすくなった省エネ製品買換ナビゲーション「しんきゅうさん」を多くの方に知っていただくため、エコファースト企業のピックカメラグループと連携して、11月30日(土)、12月1日(日)に「コジマ×ピックカメラ足立加平店」でキャンペーンを実施しました。

タッチ&トライコーナー、「しんきゅうさん」の着ぐるみと記念撮影＆ふれあいコーナー、「しんきゅうさん」ぬり絵コーナーと大人から子どもまで楽しめるイベントになりました。



エコアナウンサー

櫻田彩子のミニコラム



櫻田彩子 プロフィール

Sakurada Ayako Profile
宮城県出身のエコアナウンサー。
テレビ朝日「ゆうゆう散歩」レポーターほか、
低炭素杯の司会など。

2013年の漢字は『輪』でしたね。

この冬に担当させて頂いたいくつかの環境イベントでも輪を強く感じました。環境の分野は、地球温暖化防止、生物多様性、教育、CSR…と分かれ、その主体も企業・行政・NPO・学校等様々ですが、各分野の方々が会って話すと、なんのことではない、人も話題も面白いように繋がります。

専門は違えど、思いは同じですね。私は司会という仕事柄、様々な分野の方々とお会いする機会がありますが、多くの部分で共通点を感じます。

マーケティングの第一人者フィリップ・コトラー教授は講演で「イノベーションに不可欠な事の一つは、出来る限りナレッジワーカーのリストを拡張する事」と言っていました。時には垣根を取り払って、知識を持ちより輪を作ったら、驚くような化学変化がありそうです。

そういう意味で多くの分野が集まる低炭素杯は、魅力的なパートナーが見つかる場です。当日、司会としてお待ちしています！



一般社団法人地球温暖化防止全国ネットの活動をサポートしてください！

年会費:個人会員1口 5,000円(1口以上) 団体会員1口 20,000円(1口以上)

編集・発行



一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット(JNCCA)

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3 第一アマイビル4階

TEL: 03-6273-7785 FAX: 03-5280-8100 <http://www.zenkoku-net.org/>

